

平成29年度 学校評価結果報告書

学校法人いづみ学園
桃の木台幼稚園

当園では、平成29年度の桃の木台幼稚園学校評価として、教職員の自己評価及び学校関係者評価を実施いたしました。日々の園全体の活動、クラス運営、一人一人の園児との関わり等、全職員で改めて考える機会を持ちました。

その結果を踏まえて、保育内容や、改善すべき点などを話し合い、当園が園児たちのより良い教育活動の場となるよう、また、園と家庭間の連携を密にし、幼稚園がより安心できる場所となるよう、個々の教職員が自身の資質向上に努めてまいります。

I. 教育目標

園是「あかるく・すなおで・すこやかに」を教育目標に掲げ、整えられた環境の中で教育を行い、集団生活で子ども達一人一人の発達に応じた主体的活動を通して総合的に指導をし、個性を重んじ、身も心も健全にのびのびと発達させて美しい性情を培い、ご家庭の教育と相俟って小学校教育を受けることのできる様に基礎をつくります。

II. 今年度の重点目標

評価項目に沿って自己点検・自己評価を実施することによって、教職員自らが客観的に自園を見る目を養い、教育内容の充実、施設の改善などに主体的に取り組んでいくことを重点項目とする。

- *心身共に健やかな成長を願い、園児一人一人が自ら考え、行動する力を養う。
- *社会において、恥ずかしくない知識、マナー、言葉遣いを身に付けられるよう援助していく。
- *教職員の協力や連携体制を強化し、質の高い教育ができるように努める。

III. 評価項目と取組み状況

評価項目		取組み内容	取組み状況
1	教育方針・目標	園の方針や目標について、保護者の理解を促すように取り組んでいる。	B ・年度初めの職員全体の会議において、本年度の教育目標を設定し、職員間の教育に対する意識を確認する。 ・年・月・週単位の保育目標を設定し、全園児には「園だより」、各学年単位で「学年だより」を発行し、目標達成に向けての取り組みや状況をお知らせし、理解、協力をお願いしている。

2	教育課程の編成	<p>幼児期の教育が人格形成の基礎を培う重要なものであると認識し、幼稚園教育要領の内容に沿い、社会状況や幼児の実態、地域性を考慮しながら編成していく。</p>	B	<ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園教育要領の内容に沿っているか検討しながら、毎月の指導計画を立てている。 ・日々の保育終了後、各自で一日の保育を振り返り、評価反省をし、次の保育に繋げている。 ・期待される幼児像を明確にし、発達の各時期にふさわしい生活が展開されているかを確認しながら常に評価、改善していく。 ・今後、教育課程が一人一人の子どもの発達に反映されているか、また地域や小学校の実態に応じた指導計画が作成されているか、教職員間で話し合い見直していく。
3	指導計画の作成と評価	<p>教師間で互いの保育について話し合い、評価・反省・見直しをして次の保育に生かしている。</p>	B	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの一年の育ちを想定しながら、子どもたちにとってどのように育てたいかを考え、指導計画を立てる。 ・園児登園までに、その日の園全体、学年ごとの目標や計画を確認し、充実した保育ができる様に話し合っている。 ・放課後には、一日の問題点、改善点などを話し合い、園長、副園長、先輩教諭からの評価や助言を受けるようにしている。また、週単位で各領域の目標達成度を自己評価し、次の保育に繋げている。 ・今後さらに、保育の向上に向けた教職員間の話し合い・情報共有の機会を充実させていく。(指導案の反省、クラスの状況報告など)
4	教育環境の構成	<p>幼児の発達段階に即した遊具や用具、素材などを用意している。また、異年齢による縦割り保育も実施している。</p>	A	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児の年齢に応じた運動、教材(たのしいおべんきょう)、絵画制作などに取り組んでいる。 ・子ども達が予測をもって行動できるよう、一日の流れをイラストで示している。 ・恵まれた自然環境を生かし、四季の移り変わりを知り、心身ともに豊かに成長していけるよう援助している。 ・園で育てた野菜を使って、クッキングを楽しみ、食に対する関心を深めるようにしている。 ・異年齢による縦割り保育で、責任感や思いやりの心を育てるよう援助している。
5	指導とかかわり	<p>幼児の気持ちに共感しながら一人一人の思いを把握し、良さを認め、褒めてあげることで、目標を持たせ、自信をつけるようにしている。自ら考え、工夫することができるよう見守る。</p>	B	<ul style="list-style-type: none"> ・登園時と降園時には、元気に挨拶を交わし、一人ひとりとスキンシップをし、健康チェックをする。また、一日安心して過ごせるよう、丁寧に言葉をかけるようにしている ・異年齢の子ども達が一緒に遊び、関わりをもてるような取組を検討していく。 ・年齢に応じた絵画制作、音楽指導、体育指導をする。無理なく、楽しんで学べるように工夫し、指導している。一人一人が目標を達成できるよう励まし、喜びと自信へと繋げるようにしたい。

				<ul style="list-style-type: none"> ・園児一人一人との信頼関係を固くし、常に愛情を持って指導していくよう心掛けている。
6	教職員同士の協力・連携	<p>幼児について常に教職員間で話し合い、クラス、学年をこえて情報を共有している。</p>	B	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児の個々の情報を共有し、どの子にも対応できるように心掛けている。その場で配慮が必要な時には、近くにいる教師が幼児に思いやりの気持ちをもって言葉かけをし、指導していく。 ・保育に関して、教師間でお互いに相談し合い、こどもにとって楽しい保育ができるように取組んでいる。 ・既往症やアレルギーなど、健康面で心配な子どもについて、教職員で共通理解を図っている。また、定期的に確認している。 ・日々の体調など教職員が気づいたことや、保護者からの連絡を速やかに伝え、安心して園で過ごせるような環境づくりを心掛けている。
7	研修・研究への取組み	<p>配慮が必要な幼児に対する保育のあり方について、専門機関と連携を図りながら、研修研究を行っている。</p>	B	<ul style="list-style-type: none"> ・配慮が必要な幼児に対する配慮の仕方・接し方などについて、外部研修や書籍などを通して学んでいる。 ・必要に応じて専門機関に相談し、保護者と密に連携をとるようにしている。 ・教員が各分野に分かれて外部研修に参加し、習得した事柄について、教職員間で発表や意見交換をし、資質向上に努めている。
8	安全衛生への配慮	<p>清潔の習慣についての理解を深めると共に、トイレの正しい使い方を具体的に示している。</p>	A	<ul style="list-style-type: none"> ・歯の健康やうがい、水分補給の大切さを絵本や紙芝居、保育者の話を通して具体的に知らせるようにする。 ・保健所やボランティアの方たちを講師とし、全園児が手洗い講習を受け、清潔への関心を促している。うがいも習慣づけている。 ・トイレの使い方、スリッパの並べ方やトイレトペーパーの使い方等を子ども達に伝え、自主的にできるように取組んでいる。
9	安全管理体制の整備	<p>緊急時（事故やけが、感染症の発生時など）の対応手順について、全教職員が共通理解をもてるよう取り組んでいる。</p>	B	<ul style="list-style-type: none"> ・感染症マニュアルを整備し、教職員間で理解を深めている。 ・感染症等が流行する時期に合わせて、保護者の方にも予防対策などをお伝えし、意識を高めるよう取り組む。 ・各保育室に空気清浄機、加湿器を設置し、園児の机、バスの中の除菌・消毒などで感染症の拡大を最小限にできるように心掛けている。また、園の玄関に消毒液を置くなど、ウイルスや菌を持ち込まないようにしている。 ・AEDの使い方の確認をし、定期的に避難訓練を行い、緊急時対応手順の理解を深めるよう取り組んでいる。
10	安全管理体制の整備	<p>事故の発生を未然に防ぐために、園内の危険箇所や危険な遊び</p>	B	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的に施設・設備・遊具の安全点検を行い、事故発生を未然に防ぐことができる体制を整えている。また、毎朝の掃除をする中で危険なところを発見した場合、速

		方などについて、教職員間で話し合う仕組みが機能している。		やかに補修するようにしている。 ・遊具の下に安全マットを敷くなどして環境を整え、子ども達から目を離さず、安全に遊べるように配慮し、見守るようにしている。また、遊具を正しく安全に使い、危険な遊びをしないように、指導している。
1 1	安全管理体制の整備	施設のハード・ソフト両面から、適切な防犯体制を整えている。	B	・防犯カメラ、防犯ベルを設置し、門を施錠するなどし、防犯体制を整えている。 ・今後は、専門機関との連携を通して、不審者侵入時の対応手順についての共通理解を深める。
1 2	安全管理体制の整備	児童虐待の発見やその対応等についての手順や方法を理解している。	B	・登園時に視診を行い、子ども達の様子・状態を確認するようにしている。また、不審なけがや、不潔な様子など、気づいたことがあれば、職員間で共通認識し、観察するように心掛けている。 ・児童虐待について、外部研修で学んだり専門機関と連携をとったりし、発見のポイントや具体的対応方法などの理解をさらに深める。
1 3	保護者への協力と支援	保育参観や懇談会などを開き、子どもについて、保育について、家庭でのあり方について、共通理解を得るよう取り組んでいる。	B	・4月に家庭訪問を行い、園児の家庭環境や家庭での様子を知り、園生活が円滑に進むよう取組んでいる。 ・保育参観や個人懇談を通して、園での様子やご家庭での様子を話し合い、共通理解を持てるように取組んでいる。 ・日々の連絡や出席ノート、また、学期ごとの連絡票を活用して、保護者の方と連携が取れるようにしている。また、保護者が連絡・相談をしやすい雰囲気づくりを心掛けている。 ・保護者の協力が必要な場合は、具体的な協力のあり方について話しあっている。 ・地域の子育て家庭に園庭解放の日程を知らせたり、子育ての情報を提供したりしている。

【評価の基準】

A	十分達成されている
B	達成されている
C	取組まれているが、成果が十分でない
D	取り組みが不十分である

IV. 今後取り組むべき課題

1	指導計画の作成・評価の充実	入園から卒園までの長期的な計画を立て、指導計画が幼稚園教育要領に沿ったものであるか、一人一人の発達段階に反映されているか、無理のない計画であるか等を考えた指導計画を立てる。
2		評価の視点を明確にしておくことで、教職員間の更なる評価の充実を図ると共に、必要があれば見直し、改善を行う。
3	保育の質の向上	教職員一人一人の資質向上が、質の高い保育に繋がることを意識し、常に研究、研鑽に努める。
4		保育について、入念な準備をし、幼児が無理なく楽しんで知識や体力を習得できているかを園全体で検討していく。
5		研修に積極的に参加し、知識などを学ぶと共に、園内研修を充実させ、積極的に評価しあえるようにする。
6	保育環境の充実	恵まれた自然環境を活かし、園外活動や体験を充実させていく。
7		遊びの中から、楽しみながら知識を習得できるように配慮していく。
8		教職員との信頼関係を深め、幼稚園が安心できる場所として、子どもたちがのびのびと活動できるようにしていく。
9	保護者との連携の強化	園と家庭との連携を深め、保護者に安心して登園させていただけるようにし、一人一人に寄り添った保育を目指す。
10		保護者のニーズを把握し、検討し、適切に対応していく。
11		保護者に積極的に参加していただき、園行事をより充実させていく。
12	防災対策の強化	火災・地震を想定した避難訓練を実施し、全員で避難経路や手順を確認し合い、スムーズに実施できるようにする。また、マニュアルを確かなものにする。
13	安全管理体制の強化	感染症に関して、菌やウイルスを園に「持ち込まない、広げない、持ち返さない」を徹底し、園と保護者が協力しあい、予防に努める。
14		定期的かつ入念に施設・設備・遊具の安全点検を行い、事故の発生を未然に防ぐことができる体制を整える。また、日常の安全点検も怠らないようにする。
15		門の施錠など、防犯体制を強化していく。また、危機管理マニュアルを作成し、不審者侵入時の対応手順などについての共通理解を深める。
16		児童虐待について、外部研修や専門機関と連携をとるなどし、発見のポイントや具体的対応方法などの理解をさらに深める。なるべく早期に発見できるようにする。
17	その他	交通安全指導などで覚えたルールを、園だけでなく、家庭でも守って頂けるよう発信し、交通安全の意識を高める。
18		園児募集や、未就園児園庭開放のお知らせなど、わかりやすく発信する。

V. 学校関係者の評価

職員間の団結ができていて、何でも相談しあえる環境にあるのはとても安心です。こういう時こそ、園内での約束事や連絡などが適当になってしまわないよう、初心に帰り、再確認していくようにしましょう。子どもひとりひとりとの1対1の丁寧な保育を心掛け、地域に根付き、信頼いただける幼稚園へと成長するよう努めましょう。

